

令和8年度 当初予算版

高砂市 財政の現状と将来の見通し



高砂市
マスコットキャラクター
ぼっくりん

高砂市の予算

会計=財布



一般会計
430億円

- 福祉や教育、道路整備など、市政運営の中心となる会計

特別会計
192億円

- 国民健康保険や介護保険など、一般会計と区別する必要がある特定事業の会計

企業会計
180億円

- 上下水道や病院など、民間企業のように利用料金の収入で運営している会計

一般会計の予算内訳

歳入

区分	予算額
市税	170億9,600万円 (39.8%)
地方交付税など	74億5,549万円 (17.3%)
使用料及び手数料 分担金及び負担金 など	35億6,325万円 (8.3%)
国庫支出金	79億2,576万円 (18.4%)
県支出金	31億3,703万円 (7.3%)
繰入金	18億2,643万円 (4.3%)
市債	19億7,310万円 (4.6%)
合計	429億7,706万円 (100%)



歳出

区分	予算額
人件費	77億8,380万円 (18.1%)
扶助費	110億1,606万円 (25.6%)
公債費	31億5,735万円 (7.3%)
物件費・補助費 など	152億9,198万円 (35.6%)
維持補修費	2億5,744万円 (0.6%)
繰出金	26億1,895万円 (6.1%)
普通建設事業費 など	25億1,959万円 (5.9%)
積立金など	3億3,189万円 (0.8%)
合計	429億7,706万円 (100%)

市の予算を家計に例えた場合（収入）

高砂市の予算を年間480万円（1か月当たり40万円）の家計に置き換えてみると…

給与		22.8万円
うち給料	（市税）	15.9万円
うち諸手当	（地方交付税など）	6.9万円
パート収入	（使用料及び手数料など）	3.3万円
親からの仕送り	（国庫支出金・県支出金）	10.3万円
貯金の引き出し	（繰入金）	1.7万円
借金	（公共事業などに係る市債）	1.9万円
合計		40万円

給与やパート収入って意外と少ないりん。



貯金残高

年間480万円の家計に対し

70万円

（基金のうち財政調整基金分）

市の予算を家計に例えた場合（支出）

食費	（人件費）	7.3万円
医療費	（扶助費）	10.2万円
借金の返済	（公債費）	2.9万円
光熱費などの雑費	（物件費・補助費など）	14.3万円
車や家具の修理代	（維持補修費）	0.2万円
子どもたちへの仕送り	（繰出金）	2.4万円
家の増改築	（普通建設事業費など）	2.4万円
貯金	（積立金など）	0.3万円
合計		40万円

借金残高

年間480万円の家計に対し

468万円

（前年度末の一般会計市債残高）

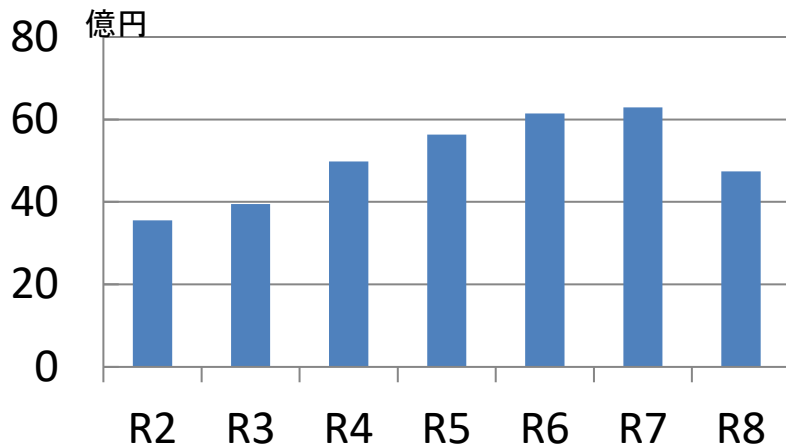
生活していくには、
親からの仕送りや
借金の活用も
必要なんだり～ん



家計に例えた場合、生活に必要なお金や借金の返済などに充てるお金の割合が高いため、自由に使えるお金はあまりない

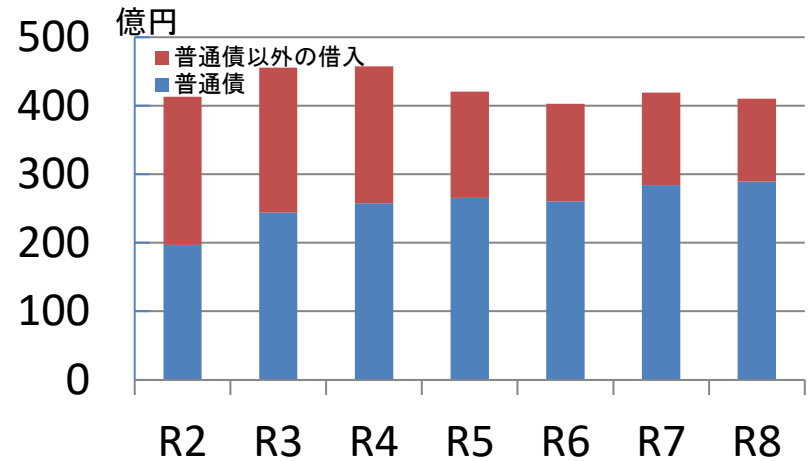
市の貯金と借金の推移

貯金の残高(財政調整基金)



※各グラフとも、R2～R6年度は決算額、R7・R8年度は決算見込額

借金の残高(一般会計の市債)



普通債とは？
道路や建物の建設に使われた借金

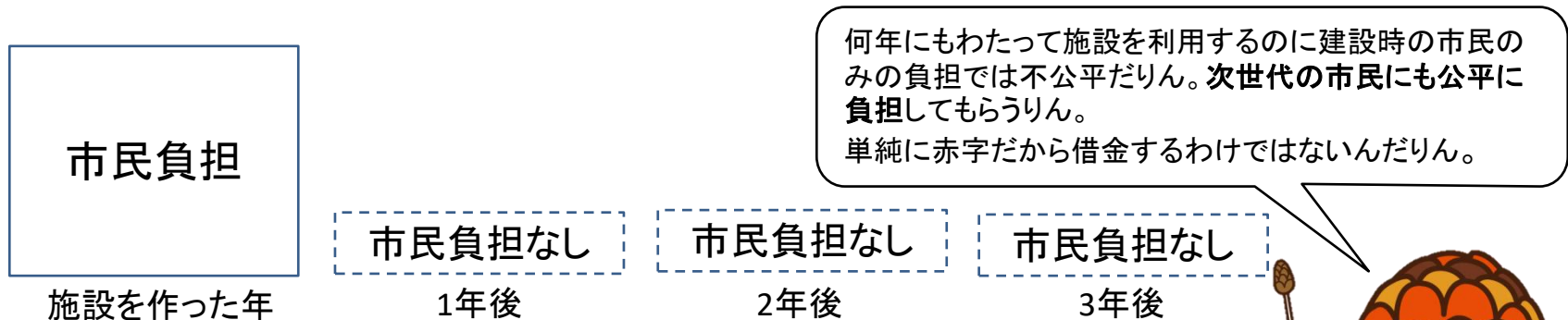
市の貯金と借金の残高の推移だりん。
貯金も借金も少し減ってきているりん。
効率的で無駄のないお金の使い方を考えるりん！
借金を活用しなければ残高は減るけど、どうだりーん？



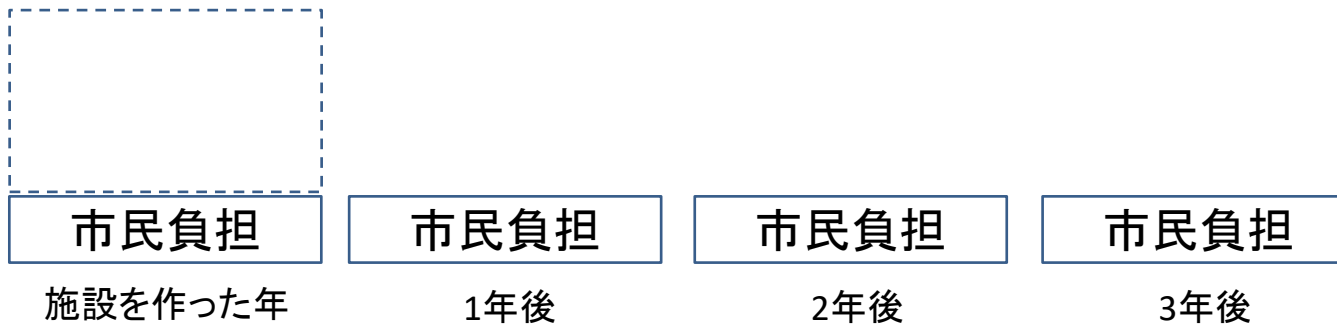
なぜ借金が必要なのか

学校や道路などの大きな施設を建設するときは、国などから補助金などが貰えますが、建設費の大部分は施設を作る時の市民が負担しなければいけません。

○借金しないで建設すると、その年の市民負担が大きくなる



○借金すると、将来にわたって負担を分割





財政の健康診断

(R6決算)

実質公債費比率
4.9%

この数値が高いほど、市の財政運営が余裕がなくなっている。

- 兵庫県内29市中 率が低い方から6番目
- 兵庫県内29市の平均 7.9%

ニコッ



将来負担比率
45.6%

この数値が高いほど、将来的に市の財政を圧迫する可能性が高くなる。

- 兵庫県内29市中 率が低い方から23番目
- 兵庫県内29市の平均 40.0%

ニコッ



減価償却率
51.2%

この数値が高いほど、施設の老朽化が進んでいる。

高砂市は、類似団体よりも低い数値となっている。

これは、必要な投資を行い、施設の老朽化対策を行っている結果である。

ニコッ



将来の見通し

人の高齢化

- 少子高齢化社会において、福祉・医療にかかる費用の増加

施設の高齢化

- 学校を中心とした施設や道路・橋りょう・上下水道などが耐用年数を迎え、更新の時期が集中

新たな行政需要への対応

- 子育て支援や社会保障経費の増加、ゼロカーボンシティ推進経費・人件費・物価高騰による費用の増、市民病院の経営状況など、引き続き財政負担の増加が見込まれるものに対応

収入の伸びが不透明

- 市税の収入の大幅な増加は、少子化に伴い働く世代が増加しないので期待できない

支出は増えるのに、収入は増えないんだりん



将来の財政に向けて

高砂市では、将来にわたって健全で持続可能な財政運営を行うために、さまざまな取り組みを進めています。

収入の確保

- 税・保険料等の徴収率の向上
- 広告掲載料の積極的な活用促進や新規開拓
- ふるさと寄附金の利用促進

支出の抑制

- 内部事務の見直し及びオンライン化、デジタル化の推進
- ペーパーレス化や省エネルギー化の推進
- 借金をしすぎない財政運営

